

■ 会社概要 (2021年3月31日現在)

社 名 株式会社構造計画研究所
 英文商号 KOZO KEIKAKU ENGINEERING Inc.
 設立年月日 1959年5月6日
 資本金 1,010百万円
 決算期 6月
 上場市場 東京証券取引所 (JASDAQスタンダード)
 事業内容 エンジニアリングコンサルティング /
 プロダクツサービス

■ 事業所所在地

本 所 〒164-0012 東京都中野区本町4-38-13
 日本ホルスタイン会館内
 本 所 新 館 〒164-0011 東京都中野区中央4-5-3
 中野坂上別館 〒164-0011 東京都中野区中央1-38-1
 住友中野坂上ビル5F・10F
 名古屋支社 〒450-6325 愛知県名古屋市中村区名駅1-1-1
 JPタワー名古屋25F
 大阪支社 〒541-0047 大阪府大阪市中央区淡路町3-6-3
 御堂筋MTRビル5F
 福岡支社 〒812-0012 福岡県福岡市博多区
 博多駅中央街8-1 JRJP博多ビル8F
 熊本構造計画研究所 〒869-1235
 熊本県菊池郡大津町室1315
 上海駐在員事務所 〒200120 中華人民共和国上海市浦東新区
 世紀大道100号 上海環球金融中心15F
 KKE SINGAPORE PTE. LTD. 600 North Bridge Road,
 #14-01 Parkview Square, Singapore 188778

■ 株式の状況 (2021年3月31日現在)

発行可能株式総数 21,624,000株
 発行済株式総数 5,500,000株
 株 主 数 4,115名

■ 株主メモ

事業年度 7月1日～翌年6月30日
 定時株主総会 毎年9月
 配当金受領株主確定日 3月31日、6月30日、9月30日及び12月31日
 基準日 6月30日
 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 特別口座の口座管理機関
 同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 東京都府中市日鋼町1-1
 (郵送先) 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 TEL: 0120-232-711 (通話料無料)

公告の方法 電子公告により行う
 公告掲載URL <https://www.kke.co.jp> (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)



Innovating for a Wise Future



証券コード
4748

第63期 第3四半期 株主通信

2020年7月1日～2021年3月31日

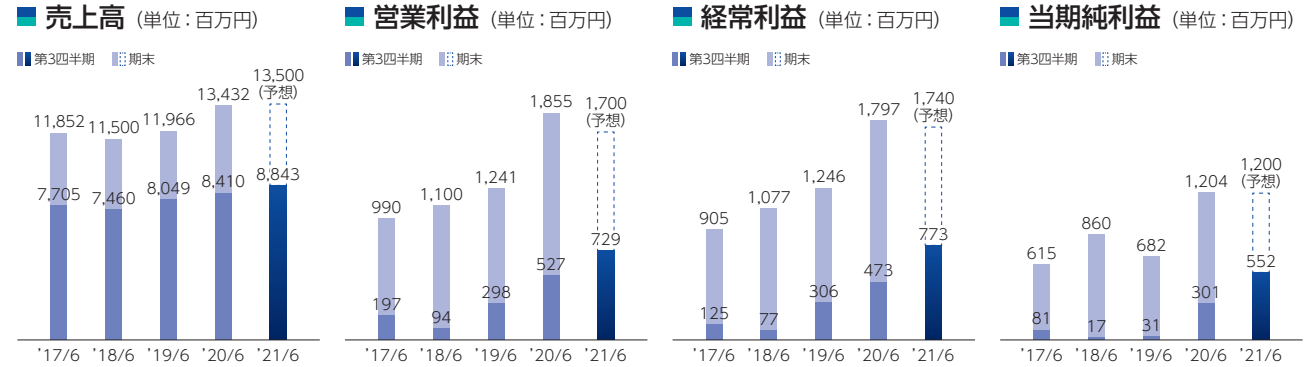
ヒト・モノ・コトをつなぐエンジニアリングで、
 社会をうごかすさまざまな仕組みを創出していきます。

構造計画研究所
 KOZO KEIKAKU ENGINEERING Inc.

第3四半期累計期間の業績

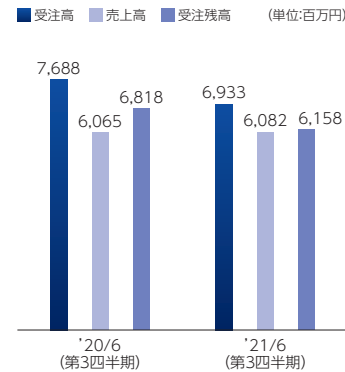
当第3四半期累計期間の当社の業績は、上半期から繰り越された受注残高に加え、前年同四半期会計期間を上回る33億11百万円（前年同四半期は32億42百万円）の受注を獲得し、売上高は88億43百万円（前年同四半期は84億10百万円）、営業利益は7億29百万円（前年同四半期は5億27百万円）、経常利益は7億73百万円（前年同四半期は4億73百万円）となりました。

また、当第3四半期累計期間において四半期純利益は5億52百万円（前年同四半期は3億1百万円）となり、前年同四半期と比較して増収増益となりました。受注残高につきましても、72億14百万円（前年同四半期は79億21百万円）と、過年度と比較して同等水準の受注残高を確保しており、通期の業績予想に対しての進捗は順調に推移しております。



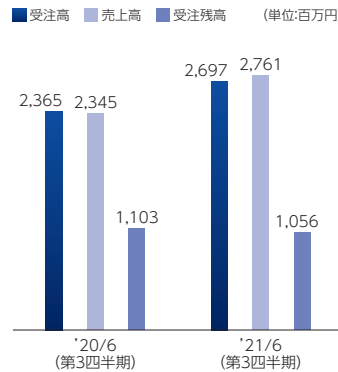
セグメント別の概況

エンジニアリングコンサルティング



住宅・建設分野向けのシステム開発業務が堅調に推移しているほか、風力発電関連ビジネスへの需要も底堅く、構造設計コンサルティング業務も順調な状況です。通信業界での研究開発投資等が活発な状況を受け情報通信技術コンサルティング業務も堅調に推移しております。

プロダクツサービス



米 Twilio, Inc.のクラウドベースメール配信サービスや独 NavVis GmbHの3次元デジタル化ソリューション、米 LockState, Inc.の入退室管理クラウドサービスが順調に販売を拡大しました。電波伝搬解析ソフト、設計者向けCAEソフト及び粒子法流体解析ソフトの販売も堅調に推移しております。

四半期貸借対照表 (要旨)

(単位: 千円)

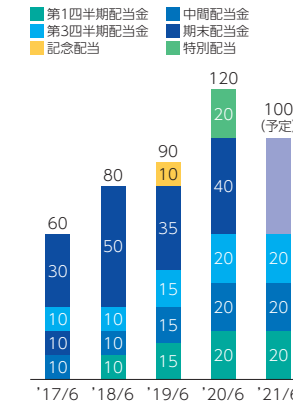
	前事業年度 (2020年6月30日現在)	当第3四半期 会計期間 (2021年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	5,824,136	6,036,854
現金及び預金	2,014,232	1,010,422
受取手形及び売掛金	1,952,397	2,377,080
仕掛品	678,208	1,376,999
その他	1,179,298	1,272,352
固定資産	9,108,011	9,728,950
有形固定資産	5,119,390	5,434,974
無形固定資産	430,377	384,226
投資その他の資産	3,558,243	3,909,749
資産合計	14,932,147	15,765,805
(負債の部)		
流動負債	4,483,191	4,713,281
買掛金	282,458	346,431
短期借入金	—	460,000
1年内返済予定の長期借入金	694,332	532,672
その他	3,506,401	3,374,177
固定負債	4,184,101	4,670,948
長期借入金	1,637,839	2,029,711
社債	250,000	200,000
退職給付引当金	2,066,986	2,192,564
役員退職慰労引当金	40,000	20,540
株式報酬引当金	93,561	128,999
資産除去債務	83,583	97,709
その他	12,130	1,423
負債合計	8,667,292	9,384,229
(純資産の部)		
株主資本	6,259,169	6,258,628
資本金	1,010,200	1,010,200
資本剰余金	1,159,926	1,325,209
利益剰余金	4,760,673	4,785,355
自己株式	△671,629	△862,136
評価・換算差額等	5,685	122,947
純資産合計	6,264,855	6,381,575
負債純資産合計	14,932,147	15,765,805

四半期損益計算書 (要旨)

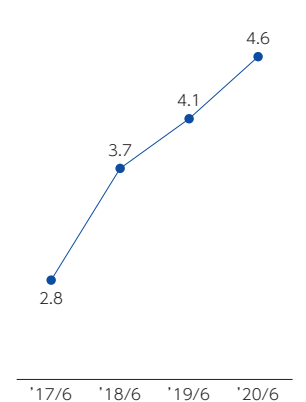
(単位: 千円)

	前第3四半期累計 (2019年7月1日から 2020年3月31日まで)	当第3四半期累計 (2020年7月1日から 2021年3月31日まで)
売上高	8,410,863	8,843,461
売上原価	3,787,176	4,097,860
売上総利益	4,623,686	4,745,600
販売費及び一般管理費	4,096,310	4,016,130
営業利益	527,376	729,469
営業外収益	12,692	84,392
営業外費用	66,884	40,408
経常利益	473,184	773,453
特別利益	—	26,068
特別損失	13,124	67,184
税引前四半期純利益	460,060	732,337
法人税、住民税及び事業税	229,532	244,015
法人税等調整額	△71,377	△64,026
四半期純利益	301,904	522,347

配当の推移 (単位: 円)



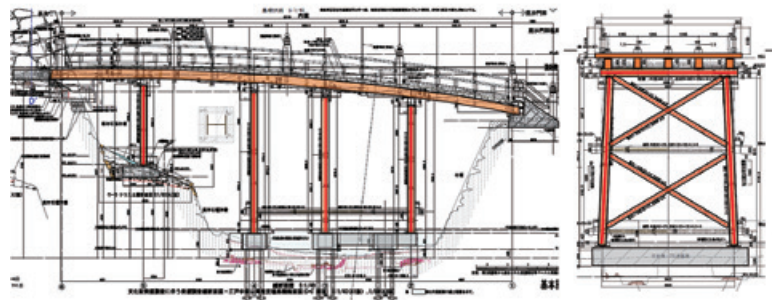
配当利回り (単位: %)



(注) 当社は2017年6月期(第59期)より、四半期配当制度を実施しております。

郡山城（奈良県）極楽橋の構造設計業務を当社が担当しました

当社が構造設計を手掛けた郡山城（奈良県）の極楽橋が2021年3月に竣工しました。極楽橋は明治時代の廃城令により撤去されたとみられ、橋がよみがえったのは約150年ぶりとなります。



極楽橋の構造設計図面

極楽橋の再建にあたり、江戸中期の橋の形状を把握するための発掘調査が2018年に行われました。その後、13回にわたる整備委員会への出席等を通じて、県・市の関係者、文化財保護の専門家、学界や施工者などの様々な関係者と議論を重ねながら、建造物の安全性だけでなく、周辺の遺構保護、石垣や橋の振動に対する安定性といった点などにも留意し、構造設計業務を実施しました。本業務の実施にあたり、当社が2011年より取り組んできた木質構造に関する構造設計およびコンサルティング業務の知見が大いに役立ちました。

当社は創業当時から、熊本城をはじめとする数多くの城郭再建に携わってきました。幅広い技術の活用を通じて、歴史的建造物の復元・維持等に今後も貢献してまいります。



■ 担当者コメント

構造設計2部
木質創造設計室
グナワン インドラ

どの国においても、文化財としての価値も高い歴史的建造物を将来に遺していくことは重要だと考えています。社外のような関係者からご指導をいただきながら、極楽橋の再建に携われたことはとても貴重な経験となりました。

本プロジェクトから得た経験を活かして、今後も様々な木造建築物の構造設計に励んでまいります。

入社式

2021年4月、国内外22名の新入社員が入社しました。今年度においては、国内における新卒採用活動により、日本国籍19名、外国籍3名を採用しています。この結果、2021年4月時点での所員数は623名となりました。

「社会のいかなる問題にも対処できるよう総合的なバラエティに富んだ専門家を集め、工学を生業とした組織を作りたい」という創業者 服部正の想いのもと、多様な価値観を持つ「人才」の育成に努めてまいります。

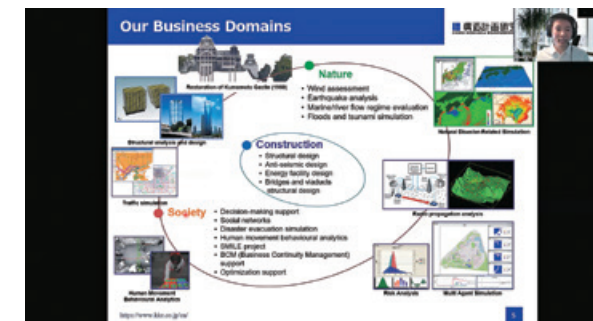


4月に行われた入社式の様子

Japan Society of Northern California主催のイベントで当社所員が講演

東日本大震災から10年の節目となる2021年3月、日米の交流を促進するNPO「Japan Society of Northern California」が主催し、日米における自然災害を教訓とした技術進歩をテーマとするオンラインイベントで、当社の技術や関連ビジネスについて紹介しました。

また、防災ビジネスに関わる所員数名がイベント参加者を対象としたパネルディスカッションに参加しました。



上記イベントで講演した次世代事業開発部 奥野峻也が東京大学 合原一幸特別教授らとともに執筆した論文（「Forecasting high-dimensional dynamics exploiting suboptimal embeddings」）がネイチャー・パブリッシング・グループの総合科学雑誌「scientific reports」の「Top 100 in Physics」※に選定されました。

※2020年に発行され、ダウンロード数の多かった物理学に関連する論文トップ100



scientific reports | nature portfolio

Interview

流体解析をコアに、 様々な技術を組み合わせ より複合的なソリューションを 提供していきたい

大学時代、防災や環境保全関連の研究に従事した吉野亜香利は、人々を災害から守るエンジニアを志し、構造計画研究所に入社。以来、主に地震発生時における地盤の解析業務に携わってきました。2020年8月からは環境影響評価コンサルティングを行う防災ソリューション部のマネージャーとして室長に就任。若き女性リーダーとして活躍している吉野がその業務内容や今後の展望を語りました。



防災ソリューション部サステナブル環境室 室長
吉野亜香利

鹿児島県生まれ。東京大学大学院農学生命科学研究科専攻修了後、2012年4月に当社入社。防災・環境部に配属後、2020年8月に防災ソリューション部に異動し、同部サステナブル環境室 室長。

Q 入社してからの業務について教えてください。

入社以来、主に地震における地盤関連の防災業務に従事してきました。具体的には、地震が発生した際にその土地で起こり得る地すべりや液状化などの地盤変状を、IT技術を駆使してモデル化し、解析・評価する業務です。

お客様はこれから建造物を建てようとしている、あるいはすでに建造物を所有している企業です。その対象物の多くは、壊れてはならないインフラ設備や公共施設であるため、地震が発生した際に、その建造物や地盤の安全性を確認することを目的に取り組んできました。地質調査会社からボーリング等によって得た土の種類や物性などのデータを受け取り、当社で開発したソフトを使って解析を行い、リスクを評価するという流れでコンサルティングを行っています。

Q 今年度、マネージャーとして 室長に任命された時の気持ちは？

プレッシャーと責任感で不安が大きかったです。部門として新

しいビジネスを作り出して、利益を出さなければならない立場なので、本当に私に務まるかなと。任命された以上は、目標達成のため先頭に立って走るしかないので、行動→考える→対応するというサイクルをできるだけ短期間で繰り返し、組織の方向性を考え続けた1年でした。

Q 現在の業務について教えてください。

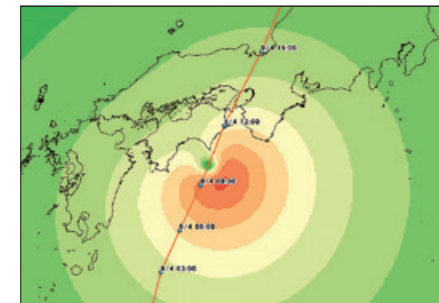
私が担当する室では水や風を対象とした流体の数値シミュレーションによる環境影響評価コンサルティングを行っています。例えば風環境の場合は、ある設計事務所が高いビルを建設する計画を立てる際、建設後にどの程度のビル風が発生するのかを評価することが義務付けられています。いわゆる環境アセスメントです。その依頼に対して、私たちは自社開発したソフトを使って強風域の予測、近隣地域への影響、建設前後の風環境比較などの評価を行い、防風対策の提案までを行います。

この1年、特に注力してきたのが風力発電の関連事業です。風車の設置を検討している事業者から依頼を受けて、該当地域



の地形を考慮し、風車の設計に必要な風速、風向、風の乱れなどを解析し、最適な場所を提案します。風は強ければ強いほどいいというわけではありません。風が強くなれば風車自体の強度を上げる必要があり、そうなると建設コストも上がります。一方で風が弱すぎると発電能力が落ちます。安全性を担保した上で、お客様にとってより良い解決策をご提案することが、私たちの使命であり、それが最終的には社会のためになると思っています。この新しい風力発電関連事業は、徐々にお客様の信頼を得られているという手応えを感じています。

上記のような解析・評価実務に加え、新しいビジネスとお客様の開拓も重要な仕事の1つです。そのために、ビジネスモデルを企画立案し、ターゲットを定め、営業担当と一緒に様々な企業や事業者に対してプレゼンを行っています。お客様の課題



シミュレーションによる台風の風速評価。色が赤に近いほど強い風速を表す。

をヒアリングし、その課題に対する技術やサービスを自らしっかりと説明できることはとても重要です。今後もリーダーとして自ら行動することを大事にしていきたいと思っています。

Q 仕事をする上で大切にしていることは？

徹底的にお客様目線に立つことです。そして、最終的にどうすれば社会にとって良い仕事になるのかを常に考えるようにしています。そうしなければいいソリューションは生み出せないと思うからです。

もう1つは、妥協しないということです。自分との戦いになるので大変ですが、この仕事は人々や社会の安全に直結する仕事なのでこだわりたいと思っています。

Q 仕事以外で取り組んでいる活動は？

昨年の4月から今年の3月までの1年間、会社から派遣され早稲田大学のネクスト・リーダー・プログラムに参加しました。いろいろな業界・業種の経営者やビジネスパーソンとディスカッションし、課題をこなすことで目から鱗が落ちる経験を多く積むことができ、視野が広がりました。最大の収穫は経営という高い視点で物事を見られるようになったこと。仕事で悩んだ時に、このプログラムで学んだことを思い出して解決したことが何度もあります。室長になったタイミングで参加できてよかったです。

Q 今後の目標・展望を教えてください。

社会が複雑化するにつれて、求められるソリューションも多様化しています。今後は様々な要素を組み合わせたより複合的なソリューションが求められるでしょう。幸いにして当社にはいろいろな部門があるので、それらの知見と技術を組み合わせお客様に提案できます。例えば私の担当する室であれば、得意分野である流体解析という技術を核にしつつ、画像処理や計測技術などを組み合わせると、より提案できる幅が広がります。そういったことをいろいろな部門と連携して進んで提案していきたいと思っています。そうして当社のファンを増やし、社会に貢献することが最終的な目標です。